

- ◆ 福岡財務支局では、平成27年度、通常実施している本省庁の財政等の施策に関する講演活動等では参加の機会を得にくい子育て中の女性層に対して、財政について子育て世代にとってかかわりの深い事項にポイントを絞った広報・広聴活動を展開。
- ◆ 当局は、地元「NPO法人ママワーク研究所」の協力を得て、28年3月29日に「財政・子育てと税の話題」及び「金融教育」をテーマとする子育て世代のママ向けの意見交換会「財務省(福岡財務支局)×ママワークコラボカフェ」を開催。
- ◆ 今後も、当局は、地元NPOとの連携を継続・強化しつつ、同カフェのような意見交換会を継続的に開催するなど、子育て世代向けの広報・広聴活動を強化していく。

1. 成果事例の概要等

- 福岡財務支局では、平成27年度、通常実施している本省庁の財政等の施策に関する講演活動等では参加の機会を得にくい子育て中の女性層に対し、財政について子育て世代にとってかかわりの深い事項にポイントを絞った広報・広聴活動を展開。
 - ① 「ロールモデルカフェ」への参加(平成27年6月22日)
 - ・ 男性の育児参画を支援する「NPO法人ファザリング・ジャパン」(東京都)が、「マザーリング・プロジェクト(ママが笑顔で子育てできるよう応援する取組)」の一環として「ロールモデルカフェ」を福岡市を含む全国6か所で開催(福岡市開催については、地元「NPO法人ママワーク研究所」との共催)。
 - ・ 福岡市開催の同カフェでは、当局からも子育て中の女性広報担当者が参加し、参加者(子育て世代のママたち)と、仕事と子育ての両立、日本の財政と子育て世代にまつわる税の話題について意見交換。
 - ② 「財務省(福岡財務支局)×ママワークコラボカフェ」(28年3月29日)
 - ・ 当局では、「ロールモデルカフェ」への参加の経験を活かし、地元「NPO法人ママワーク研究所」の協力も得て、当局独自の取組として、意見交換会「財務省(福岡財務支局)×ママワークコラボカフェ」を企画・開催。
 - ・ 「ロールモデルカフェ」で意見交換した「財政・子育てと税の話題」に加え、子育て世代のママに関わりのある「金融教育」に関するテーマも追加するなど、内容を充実。当局職員が講師となりミニ講座を実施した後、参加者と意見交換を行った。



ロールモデルカフェ(27年6月)



財務省×ママワークコラボカフェ(28年3月)

2. これまでの取組の成果等

- 「ロールモデルカフェ」での意見交換では、以下のような意見が出された。
 - ・ 税の話も大変わかりやすく、勉強になった。また機会があったら是非参加したい。
 - ・ 税金は「払ってばかり」と思っていたが、意外に受益が多いことを知ることができてよかった。
 - 「財務省(福岡財務支局)×ママワークコラボカフェ」での意見交換では、以下のような意見が出された。
 - ・ 少子高齢化が進む中、子ども・孫世代の生活が心配。選挙や国政にも興味が必要。ママ友にも伝えたい。
 - ・ 日本の財政状態がわかった。子どものために消費税アップも必要かなと思った。
 - ・ 税の使い道について考える機会がなかったが、今後はもっと関心を持っていこうと思った。
 - ・ 家庭の財政計画を考えるのが苦手だったが、将来を見据えて計画していきたい。
-
-
- 財政という幅広いテーマの中から、子育て世代に即した話題を提供する等、ポイントを絞った広報活動を展開することで、子育て世代の女性層に国の財政について関心を持ってもらうきっかけに。
- 「社会保障と税の一体改革」に関する活動について理解があり、子育て世代の女性層にネットワークを有するNPO団体との関係を継続し、今後の広報展開に活用。

3. 今後の課題と福岡財務支局の対応

- ＜今後の課題＞
 - 社会保障と税の一体改革や財政への関心・理解を深めるための広報活動は、幅広い層への展開が重要。とりわけ子育て世代の女性など、当局の通常業務では接点がありません。先に対する広報展開は、いかに興味を持ってもらうか、資料の簡略化、ポイントを絞ったわかりやすい説明、子連れでも参加しやすい会場選定など開催方法を工夫しつつ、地道かつ継続的な活動が必要。
- ＜今後の福岡財務支局の対応＞
 - 地元NPOとの連携を継続・強化しつつ、「財務省(福岡財務支局)×ママワークコラボカフェ」を継続的に開催するなど、子育て世代向けの広報・広聴活動を強化していく。